

アサヒロジスティクス
(本社・さいたま市、横
塚元樹社長)は新潟県に
進出し10年以上たつ。2
022年10月には長岡共
配センター(新潟県長岡
市)を稼働。共配センタ
ーがある東北、関東を物
流で結ぶ上で最適なエリ
アとして重視している。

新潟県には、在庫型の
物流センター構築を望ん
だ顧客から依頼を受け、
13年9月に卸を荷主とす
るスーパー向けの新潟物

22年10月には、長岡市

浜市、茨城県五霞町、増
玉県嵐山町、さいたま
市、千葉市、千葉県松戸
市、横浜市にあった。そ
れらの拠点と物流をつな
ぐ上で「新潟県は最適だ
った」とリテール物流本
部第2ブロックの佐々木
敬之ブロック長。

そこで今夏から、農家
に長岡共配センターへ青
果物を持ち込んでもら
い、長岡共配センターか
ら関東に向かうアサヒロ
ジスティクスの車両で関
東の小売店へ運んでい
る。佐々木ブロック長は
「農家の販路拡大、新潟
県の地域活性化につな
がれば」と話す。

(熊田 安那)

タカロジ

郵便輸送で業務拡大 人気のスカニア3台稼働

「今、勢いに乗ってい
る。5月にスカニアスー
パー3台が配置され、近
々、営業所も施設の狭あ
い化などで新築・移転す
る」。タカロジ(本社・
栃木県那珂川町)の道幸
由竹社長は開設から間も
なく3年がたつ新潟営業
所(新潟県小千谷市)の
現況をこう説明する。

タカロジが甲信越地方
の拠点として新潟営業所
を開設したのは2023
年1月。地元運送会社か
らの事業譲渡・譲受によ
り、全国8カ所目の拠点
として開設された。関越
自動車道小千谷インター
チェンジ至近の小千谷市
若葉3ノ29に立地する。

青木健太所長以下15人、
保有車両は大型ウイング
車12台など全15台。地場
輸送が主力だったが、現
在では新潟1名古屋・東
京・川崎間の郵便物の定
期輸送が大半を占めてい
る。

ドライバーの直近の話
題は専ら5月下旬に納車
されたスウェーデン・ス
カニア製大型トラックス
カニアスーパー。鮮やか
なタカロジのロゴと車体
カラー、力強いグリルが
目を引く。タカロジ全体
では15台が稼働し、うち
3台が新潟営業所に配車
されている。

4千㎡超の土
地を既に取得

さらに営業所の狭あい
化に伴う移転では、既に
同じ小千谷市内に460
0平方メートルの土地を確保し

と力を込める。

(高木 明)



「スカニアスーパー」の納車式に臨む
タカロジ新潟営業所のメンバー

フォーカス進出企業